

愛媛県における保育の歴史とキリスト教の役割

○児嶋雅典、山崎正幸、高杉展、菅田栄子、高橋健介（松山東雲短期大学）

1. はじめに

愛媛県の幼稚園や保育所の成立過程についてこれまで数年をかけて調査をしてきた。その動機は市町村合併にともなう統廃合や園の世代交代、園舎の改築や新築移転などにより設立当時の様子を知る資料が入手しにくくなっていることである。実際、すでに資料は散逸したり処分されていたものが多い。中でも明治期に設立された幼稚園のものは殆ど入手できなかった。それでも調査を進める中でいくつかのことが明らかになった。その中から3つほどあげておきたい。

1つは愛媛県の保育の普及にはキリスト教の果たした役割が大きいことである。特に大正期の幼稚園にめざましい。2つめは県内各地の郡部において1950年代頃から幼児学級や実験学級と呼ばれる就学前の子どもを対象とした教育が寺や公民館で普及していたことである。出生数の増加や農繁期の忙しさから保育所や季節託児所が作られ、そして教育への期待から幼稚園はもちろん保育所や託児所にも幼児学級が作られた。幼い子どもたちを抱えた母親たちが交替で子どもの世話をしたのが農繁期の託児所であるが、行政の動きに先んじて既に保育の必要性は広がっていたのである。3つめにはそこで保育にあたった人々の献身的な働きである。人手も物も十分でなかった頃に今では考えられないほど心のこもった「豊かな」実践の記録を確認できたことである。ここには子どもの権利条約や児童福祉法に見られる子どもを一個の人間として尊重する考え方の定着があると思われる。

2. 研究の動機

こうした結果から県における保育の普及に及ぼしたキリスト教の役割を継続して調査することにしたのである。我々の所属がキリスト教学校であることも研究の動機になっている。愛媛の明治期の幼稚園は8園を数える。1箇所（県師範学校附属）を除いて全て私立の幼稚園である。開設場所は県下の主要な地域に散在しており、各地の進歩的な人物によるものが多い。キリスト教主義の幼稚園は1905年開設の宣教師デマリーによる幼稚園（親愛幼稚園）、保育園は1904年開設の宣教師ターナーによる保育園（鶴城幼稚園の前身）が現時点では確認できた。多く現れるのは大正期に入ってからである。大正期には9つの幼稚園が開設され

たが、8園までは私立であり、その中の6園はプロテスタント教会が関係している。鶴城、石手川、勝山、卯之町、村井、八幡浜（当初は保育園）の幼稚園である。この時点ではカトリック系の幼稚園はない。それから昭和40年代前半まで私立の幼稚園が開設されるがその3割近くはキリスト教関係のものである。カトリック系の幼稚園の殆どはこの時期に開設されている。

このように見てくると、愛媛県の保育の歴史においてキリスト教が果たしてきた役割は時期の早さだけでなく考え方としても重要だと思われる。そこで本研究ではキリスト教をカトリックとプロテスタントに分けて、その伝道のルートと附属幼稚園や保育所の開設との関連について調査を試みようとしたのである。

3. 愛媛県におけるキリスト教の伝道

まずカトリック教会だが、1873年キリスト教の禁令が解かれると再び布教が始められた。カトリック教会は1882年大阪から高知に上陸した。そこから1885年には松山、1891年には広島経由で宇和島に入った。松山教会は1887年に作られたが松山は保守的でキリスト教に対する関心は薄かった。そこで病人や貧民への慈善事業を行うこともした。1924年には美善女学校を設立、聖カタリナ女子高校の前身である。宇和島教会は1891年に伝道が始まった。この地はカトリックとの関係もあったがやはり布教は容易ではなかった。そして1928年には地元民の要請もあり愛和幼稚園を設立、殆ど無料に近い保育料で教育をした。今治教会は東予地区の最初のカトリック教会である。今治は産業が盛んで進歩的な都市であり、比較的信者も多かった。1934年には附属若葉幼稚園が設立された。八幡浜教会は1934年に宇和島教会から生まれた。3年後の1937年には聖母幼稚園を開設し独立して布教を始めた。同じ頃新居浜教会も誕生、工業の盛んな新居浜は県下でも信徒の多い所であった。教会設立と同時に附属聖マリア幼稚園が開設されている。1950年には西条教会が作られ、同時に附属聖十字架幼稚園が開設されている。その他にも和裁や洋裁、料理学校も開かれた。郡中教会は1952年に開かれ、1954年には附属天使幼稚園が設立された。次いで1956年に道後教会が開かれ、同時に道後聖母幼稚園が設立されている。1965年には北条市に聖カタリナ短期大学を開設、1967年に

は学内に北条教会が作られている。1976年には伊予三島教会が誕生、県下では最も新しい教会であり、英語教室、料理学校などの社会教育的な活動を通して地域と密接な関係を築いている。

次にプロテスタント教会であるが、多様な教派として存在しているのが特徴である。その全体を網羅する訳にはいかないが、今日、諸教派の合同した教会となっている日本基督教団を構成する旧教派のなかから2つの教派の主に明治・大正期について概略する。

1860年頃に日本にやってきたプロテスタントは長老教会、聖公会、バプテストなどの教派であり、主に関東で伝道した。それから10年遅れてやってきたのが組合教会やメソジストなどの教派であった。伝道した地区にはまだ開拓されていない関西が主に選ばれた。

組合教会は1876年アメリカン・ボードの宣教師が神戸から松山の三津浜港に着いたことに始まる。これが最初のプロテスタントの愛媛県への上陸であった。しかし他宗教の反対にあい、神戸へ帰る途中で今治に立ち寄り伝道した。このため今治教会が県下、最初のプロテスタント教会として誕生、1879年のことである。組合教会は今治を拠点にして松山、北条、小松、西条、波止浜そして大島や伯方、岩城などの諸島にまで伝道を広げることになる。今治教会には1951年に附属の今治めぐみ幼稚園が開設された。1884年には西条教会が開設され、1927年には附属双葉幼稚園が今治教会の支援を得て設立された。松山教会は1885年に作られた。初代の牧師は二宮邦次郎であった。その数日後には伊予小松教会が一般の無理解の中で難産の末に誕生している。ここには後の1969年にダビデ保育園が開設された。1887年と1904年には松山教会の伝道所であった郡中講義所と古町講義所がそれぞれ独立して郡中教会、古町教会となった。松山における組合教会は地域の教育や福祉にも着手した。1886年松山女学校、1891年松山夜学校、1913年松山女子夜学校幼稚園（1918年に勝山幼稚園、さらに1937年には松山東雲高等女学校附属幼稚園を経て現在は松山東雲短期大学附属幼稚園に引き継がれている）。1918年松山夜学校の子守学校（後の松山教会の附属石手川幼稚園）などである。また宇和島には1888年に宇和島信愛教会が設立されている。

メソジスト教会は1873年にアメリカやカナダからの宣教師が来日したことに始まる。愛媛県には1887年広島を経て四国に渡ったアメリカ南メソジスト教会の宣教師ランバス夫妻によって宇和島に伝道がなされた。宇和島は進取的な気風があり好感をもって迎えら

れた。宇和島中町教会の設立である。後の1907年新しく赴任した宣教師ターナーは保育園を開設している。数年で閉園となったが1917年にはターナー記念鶴城保育園（現在の鶴城幼稚園）が開設された。八幡浜に伝道がなされたのは1884年であるが、中町教会との関係で教会の設立を見たのは1888年である。1925年には保育所を設立し、それを基盤にして1950年に教会附属幼稚園を開設している。また吉田には1914年に保育園が開設された。卯之町には1922年に卯之町教会が作られ、同時に附属の幼稚園も併設された。松山には1891年松山メソジスト教会（現在の松山番町教会）が作られ、そこから三津浜、長浜、砥部への伝道が始まった。1905年には松山保育園が開設され、1908年には幼稚園（現在の親愛幼稚園）が開設された。1921年には三津教会が作られ、1949年には愛隣保育園を開設した。また、1950年には砥部教会が設立され、翌年には愛育幼稚園が開設されている。

4. 考察

以上、愛媛県におけるキリスト教の伝道と幼稚園や保育園の成立過程を概略してきた。両者の共通点は伝道の一環として教育施設や福祉施設を設立していくことである。その伝道の過程において、幼稚園や保育所を開設し、地域とのつながりを保てるような教会を目指していたのではないかと考えられる。カトリック教会では、その附属施設の殆どが幼稚園や学校であることを考えると、教育ということを中心に布教を展開しているように思われる。それに対してプロテスタント教会は、子どもや女性の福祉に重点を置いていたのではないかと思われる。宣教師に女性が多いのもこのように考えると説明ができるのかもしれない。この点は今後の課題である。

もう1つあげておきたいことがある。大正期に設立された幼稚園の多くがプロテスタント系であり、カトリック系のものが見あたらないことである。カトリック系の幼稚園は昭和の初期から40年代に設立されている。布教そのものは明治期からであるが、幼稚園などの教育施設はかなり後になっている。その理由としては、布教が教区、あるいは宣教会・修道会を中心に行われていたこと、実際の教育の中心的な役割を担っていくのが修道会等であったことなどが考えられる。この点の検証も今後の課題である。

いずれにせよ、カトリック教会・プロテスタント諸教派が、幼稚園や保育所の普及に果たした役割の大きさは確かであろう。